

ニッセイ インターネットアンケート ～「夏のボーナス・新型コロナウイルス感染症の影響」について～

日本生命保険相互会社（社長：清水博）は、「ずっともっとサービス」のサンクスマイルメニューのひとつとして、ホームページ（<https://www.nissay.co.jp>）内の「ご契約者さま専用サービス」にて、「夏のボーナス・新型コロナウイルス感染症の影響」に関するアンケート調査を実施いたしました。

《アンケート概要》

- 実施期間：2020年6月1日（月）～6月14日（日）
- 実施方法：インターネットアンケート（「ずっともっとサービス」のサンクスマイルメニュー）
- 回答者数：9,180名（男性：4,815名、女性：4,365名）

＜年代別回答者数＞

[名]

年代							合計
	～20代	30代	40代	50代	60代	70代～	
男性	345	612	1,008	1,391	935	524	4,815
女性	400	610	868	1,160	817	510	4,365
合計	745	1,222	1,876	2,551	1,752	1,034	9,180
占率	8.1%	13.3%	20.4%	27.8%	19.1%	11.3%	100.0%

《アンケート結果のポイント》

ポイント①

質問 1～6

【夏のボーナスについて】

- 平均支給額は約 55.4 万円となった。（昨年比▲約 5.6 万円）
- 昨年以上に、支給額が「増えた」方よりも「減った」方の割合が高かった。
- 支給額が「減った」と回答した方の割合が最も多い業種は「製造業」で 42.2%となった。
- ボーナスを貯蓄・資産形成に「回す」方は 56.2%で、貯蓄・資産形成以外の使い道は「生活費の補てん」が 28.1%となり最も多かった。

ポイント②

質問 7～10

【新型コロナウイルス感染症の家計への影響について】

- 新型コロナウイルス感染症の拡大前後の世帯収入を比較すると、全世代で「減った」方が「増えた」方を上回り、若い世代ほど「減った」方の割合が高かった。
- 新型コロナウイルス感染症の拡大前後の世帯支出を比較すると、「増えた」方が「減った」方を上回り、特に 30～40 代の子育て世代で「増えた」方が多かった。
- 増えた支出は「食費」が最も多く、減った支出は「レジャー費」が最も多かった。
- 特別定額給付金の使い道は「生活費の補てん」が 30.7%となり最も多かった。

ポイント③

質問 11～14

【新型コロナウイルス感染症の夏季休暇への影響について】

- 夏季休暇の予定は「見通しが立っていない」方が 39.8%となり、理由は「新型コロナウイルス感染症の収束の見通しが立っていないため」が 62.9%となった。
- 「国内旅行」「海外旅行」「レジャー」と回答した方はそれぞれ減少した。
- 平均予算は約 4.8 万円となり、昨年の約 6.9 万円に比べ約 2.1 万円減少した。

【夏のボーナスについて】

質問1～6について<無職、専業主婦（主夫）、自営業、公務員、パート・アルバイト、学生除き>で集計

質問1 ボーナスの支給額はいくらでしたか？（回答者数：4,870名）

質問2 支給額は昨年と比較して増えましたか？減りましたか？（回答者数：4,870名）

質問3 予想していた金額より多いですか？少ないですか？（回答者数：4,870名）

- ボーナスの平均支給額は約55.4万円となった。（昨年比▲約5.6万円）
- 昨年以上に、支給額が「増えた」方よりも「減った」方の割合が高かった。
- 支給額が「減った」と回答した方の割合が最も多い業種は「製造業」で42.2%となった。
- 昨年以上に、「予想より少ない」と回答した方の割合が高かった。

■ ボーナスの平均支給額

	今年 (万円)			昨年 (万円)		
		男性	女性		男性	女性
～20代	31.3	35.7	26.9	36.2	37.3	34.7
30代	44.6	51.1	28.2	47.2	54.4	33.4
40代	55.6	65.4	30.1	62.4	69.2	45.4
50代	70.2	81.8	33.2	76.7	88.2	43.4
60代	54.0	58.5	26.4	55.4	57.6	47.8
70代～	49.8	56.7	19.8	81.5	107.7	32.9
全体	55.4	65.5	29.6	61.0	69.7	40.6

昨年から約5.6万円の下落
男女格差は継続

■ ボーナスの支給額は昨年と比較して増えたか

	今年 (%)	昨年 (%)
増えた	7.5	13.4
減った	30.1	14.3
変わらない	62.4	72.3

昨年以上に「減った」方が増加

■ ボーナスが「減った」と回答した方（業種別）

順位	業種	占率 (%)
1位	製造業	42.2
2位	生活関連サービス業、娯楽業	40.0
3位	金融業、保険業	34.4
4位	宿泊業・飲食サービス業	34.2
5位	卸売業、小売業	32.8

ボーナスが「減った」と回答した方の割合は「製造業」が最多

ボーナスの減少は業種ごとの傾向が鮮明

■ ボーナスの支給額は予想と比べてどうだったか

	今年 (%)	昨年 (%)
多い	4.0	4.1
少ない	26.6	19.6
予想通り	69.4	76.3

昨年以上に「予想より少ない」と回答した方が増加

質問4 今回のボーナスを貯蓄・資産形成に回しますか？（回答者数：4,870名）

質問5 <質問4で「はい」と回答した方への質問>

ボーナス全額の何割を、貯蓄・資産形成に回しますか？（回答者数：2,738名）

質問6 貯蓄・資産形成以外で主に何に使いますか？（回答者数：4,870名）

- ボーナスを貯蓄・資産形成に「回す」方は56.2%となり、年代別では50代以下で「回す」と回答した方が多かった。
- 貯蓄・資産形成に回す割合は昨年より増加し、54.9%となった。
- 貯蓄・資産形成以外の使い道は「生活費の補てん」が28.1%となり最も多く、「国内旅行」「海外旅行」と回答した方はそれぞれ大きく減少した。

■ボーナスを貯蓄・資産形成に回すか

	今年 (%)							昨年 (%)
	~20代	30代	40代	50代	60代	70代~	平均	
はい	56.2	58.8	65.0	61.2	57.8	36.7	19.9	53.9
いいえ	43.8	41.2	35.0	38.8	42.2	63.3	80.1	46.1

昨年同様、半数以上の方が「貯蓄・資産形成に回す」と回答
年代別では50代以下で「回す」と回答した方が多い

■貯蓄・資産形成に回す割合

	今年 (%)							昨年 (%)
	~20代	30代	40代	50代	60代	70代~	平均	
1~2割未満	20.6	28.0	22.9	18.3	18.6	18.0	42.9	22.4
2~4割未満	17.8	18.1	17.4	18.0	18.3	14.9	28.6	20.9
4~6割未満	19.5	20.4	19.0	21.4	18.5	18.4	7.1	23.9
6~8割未満	13.7	12.8	13.9	15.1	12.9	13.2	7.1	13.5
8~10割未満	12.5	9.5	11.8	12.6	15.2	9.2	0.0	8.1
10割（全額）	15.9	11.2	15.0	14.7	16.5	26.3	14.3	11.0
平均*	54.9	48.6	53.5	55.4	56.7	60.2	37.9	49.4

*貯蓄・資産形成に回す割合の平均

■貯蓄・資産形成以外の使い道

順位	今年 (%)		昨年 (%)	
	内容	占率	内容	占率
1位	生活費の補てん	28.1	国内旅行（宿泊あり）	19.5
2位	買い物（自分の欲しいもの）	14.6	生活費の補てん	18.8
3位	国内旅行（宿泊あり）	7.8	買い物（自分の欲しいもの）	18.1
4位	ローンの返済	6.4	海外旅行	10.4
5位	近場のレジャー（日帰り）	5.3	ローンの返済	7.2

約3割が「生活費の補てん」と回答
「国内旅行」「海外旅行」はそれぞれ減少し、「海外旅行」と回答した方は2.4%に留まった

<ニッセイ基礎研究所 総合政策研究部 チーフエコノミスト やじまやすひで 矢嶋康次のコメント>



夏のボーナスの支給額は、昨年と比べて大きく減少しています。昨年の消費税率引き上げによる景気への影響に加え、新型コロナウイルス感染症により業績が悪化している企業が多いことが背景にあります。しかしながら、新型コロナウイルス感染症の影響が顕在化する前に支給額の決定をしている企業も多く、冬以降のボーナスはさらに厳しい結果となる可能性が高いと思われます。ボーナスの使い道は、引き続き貯蓄との回答が多いですが、貯蓄以外では生活費の補てんとの回答が増加しています。新型コロナウイルス感染症で毎月の収入が減少した世帯も多く、ボーナスでその補てんを考えているのでしょうか。

【新型コロナウイルス感染症の家計への影響について】

- 質問7 新型コロナウイルス感染症の拡大前後で、ひと月当たりの世帯収入に増減はありましたか？
(回答者数：9,180名)
- 質問8 新型コロナウイルス感染症の拡大前後で、ひと月当たりの世帯支出に増減はありましたか？
(回答者数：9,180名)
- 質問9 どのような支出が増えましたか？減りましたか？ (回答者数：9,180名)
- 質問10 特別定額給付金を、何に使いましたか？(使う予定ですか?) (回答者数：9,180名)

- 新型コロナウイルス感染症の拡大前後の世帯収入を比較すると、全世代で「減った」方が「増えた」方を上回り、若い世代ほど「減った」方の割合が高かった。
- 新型コロナウイルス感染症の拡大前後の世帯支出を比較すると、「増えた」方が「減った」方を上回り、特に30～40代の子育て世代で「増えた」方が多かった。
- 増えた支出の最多は「食費」で48.6%、減った支出の最多は「レジャー費」で33.2%となった。
- 特別定額給付金の使い道は「生活費の補てん」が30.7%となり最も多かった。

■新型コロナウイルス感染症の拡大前後での世帯収入 (ひと月当たり) の増減

(%)

	全体						
	～20代	30代	40代	50代	60代	70代～	
増えた	3.4	3.8	4.1	3.7	2.5	3.2	4.1
減った	31.7	39.9	37.6	36.4	34.3	24.4	16.1
変わらない	65.0	56.4	58.3	59.9	63.2	72.4	79.9

若い世代ほど
収入が「減った」方が多い

■世帯収入 (ひと月当たり) が「減った」と回答した方 (業種別)

(%)

順位	業種	占率
1位	宿泊業・飲食サービス業	68.4
2位	生活関連サービス業、娯楽業	50.0
3位	サービス業 (他に分類されないもの)	43.7
4位	運輸業、郵便業	42.1
5位	金融業、保険業	40.9

世帯収入 (ひと月当たり) が
「減った」と回答した方の割合は
「宿泊業・飲食サービス業」が最多

■新型コロナウイルス感染症の拡大前後での世帯支出（ひと月当たり）の増減

(%)

	全体						
	~20代	30代	40代	50代	60代	70代~	
増えた	25.0	20.3	30.9	33.1	25.7	20.1	13.2
減った	19.6	24.4	21.6	19.2	21.6	17.6	13.1
変わらない	55.4	55.3	47.5	47.7	52.8	62.2	73.7

特に30~40代の
子育て世代で
支出が「増えた」方が多い

■「増えた」支出

(%)

順位	品目	占率
1位	食費	48.6
2位	光熱・水道費	13.2
3位	日用品（備蓄品）購入費	10.7
4位	お小遣い	1.6
5位	通信費	1.2

(%)

配偶者なし	配偶者あり	子育て世帯*
41.4	52.1	58.1
14.0	12.8	13.1
12.2	9.9	8.9
2.1	1.3	1.1
1.5	1.1	1.0

全体の約半数が「食費」が増えたと回答
特に子育て世帯で増加

※扶養対象のお子様ありと回答した方を「子育て世帯」と表記

■「減った」支出

(%)

順位	品目	占率
1位	レジャー費	33.2
2位	交際費	15.4
3位	食費	11.5
4位	お小遣い	4.3
5位	日用品（備蓄品）購入費	2.1

(%)

配偶者なし	配偶者あり	子育て世帯
26.9	36.4	40.5
16.9	14.6	15.9
11.5	11.5	11.0
5.0	4.0	4.2
2.6	1.8	1.7

全体の約3割が「レジャー費」が減ったと回答
特に子育て世帯で減少

■特別定額給付金の使い道

(%)

順位	手段	全体						
		~20代	30代	40代	50代	60代	70代~	
1位	生活費の補てん	30.7	27.5	30.5	30.0	31.0	31.0	33.1
2位	貯蓄・資産形成	22.1	27.8	29.5	23.7	22.1	17.1	15.1
3位	買い物（自分の欲しいもの）	13.2	16.2	13.3	12.3	11.8	14.8	13.2

全体の約3割が「生活費の補てん」に使用すると回答

<ニッセイ基礎研究所 総合政策研究部 チーフエコノミスト 矢嶋康次のコメント>

世帯収入が減ったとの回答（31.7%）が、増えたとの回答（3.4%）を大きく上回っています。特に新型コロナウイルス感染拡大防止のために休業要請を受けた、宿泊、飲食、娯楽業などの方の減少割合が高いです。

一方で、支出については25%の世帯が増えたと回答しています。自粛によりレジャーや交際費への支出が減少している一方で、家庭にいる時間が長くなったため、食費や、光熱費などの支出が増えています。

【新型コロナウイルス感染症による夏季休暇への影響について】

- 質問 1 1 今年の夏季休暇は何をして過ごす予定ですか？（回答者数：9,180名）
 質問 1 2 <質問 1 1で「見通しが立っていない」を選択した方への質問>
 見通しが立っていない理由はなんですか？（回答者数：3,570名）
 質問 1 3 昨年の夏季休暇は何をして過ごしましたか？（回答者数：9,180名）
 質問 1 4 今年と昨年の夏季休暇の予算はそれぞれいくらですか？（回答者数：9,180名）

○夏季休暇の予定は「見通しが立っていない」方が39.8%となり最も多く、次いで「自宅・自宅周辺で過ごす」となった。「国内旅行」「海外旅行」「レジャー」と回答した方はそれぞれ減少した。
 ○見通しが立っていない理由は「新型コロナウイルス感染症の収束の見通しが立っていないため」が62.9%となり最も多かった。
 ○今年の夏季休暇の平均予算は約4.8万円となり、昨年の約6.9万円に比べ約2.1万円減少した。

■今年の夏季休暇は何をして過ごす予定か

順位	今年 (%)		昨年 (%)	
	内容	占率	内容	占率
1位	見通しが立っていない	39.8	自宅・自宅周辺で過ごす	39.6
2位	自宅・自宅周辺で過ごす	33.9	国内旅行（宿泊あり）	25.2
3位	国内旅行（宿泊あり）	15.7	近場のレジャー（日帰り）	16.6
4位	近場のレジャー（日帰り）		7.3	
5位	海外旅行	1.0	海外旅行	5.1

約4割が「見通しが立っていない」と回答
 「国内旅行」「海外旅行」「レジャー」はそれぞれ減少し、昨年の合計46.9%から合計15.7%まで減少

■「見通しが立っていない」理由

順位	理由	占率 (%)
1位	新型コロナウイルス感染症の収束の見通しが立っていないため	62.9
2位	金銭的な余裕がないため	15.2
3位	夏季休暇の取得予定が立っていないため	14.5

約6割が「新型コロナウイルス感染症の収束の見通しが立っていないため」と回答

■夏季休暇予算の昨年比

	全体 (%)		(万円)		
	増やす	減らす	今年	昨年	差額
増やす	3.1		4.8	6.9	▲2.1
減らす	33.1				
変わらない	63.8				

約3割が予算を「減らす」と回答し、金額は約2.1万円減少

<ニッセイ基礎研究所 総合政策研究部 チーフエコノミスト 矢嶋康次やじまやすひでのコメント>
 夏季休暇の過ごし方は、見通しが立っていない、自宅・自宅周辺で過ごすとの回答が多く、旅行や近場のレジャーの回答が昨年と比べて大きく減少しています。緊急事態宣言は解除されましたが、引き続き新型コロナウイルス感染症への警戒が続いているようです。

以上